

# 13年度 町政方針



## 環境重視・環境配慮のまちづくり 『みどりのフロンティア』

三月定例町議会が、三月八日から二十一日まで十四日間の日程で開かれ、十三年度一般会計予算など三十議案を審議、二十九議案が原案可決、一議案が承認されました。

初日、町長は『みどりのフロンティア』を基本理念とする後期基本計画が成案になったことを報告、環境立町の考え方によって「閉塞状態にある町の未来にようやく一筋の光明がさすものと確信する」と述べ、町政運営の基本姿勢を明らかにしました。

十三年度の重点課題とその取り組み（要旨）は次のとおりです。

まちづくりの指針となる総合開発計画・後期計画は、まちづくり審議会の指摘などを踏まえ成案としました。「みどりのフロンティア」を基本理念とし、町政全般において環境重視、環境配慮のまちづくりを進めることにより二十一世紀の課題である循環型社会、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、森林、林業、農業などこの町を支えてきた伝統的産業に新たな息吹を吹き込み、新しい産業の可能性を広げていくことを狙いとしています。町民生活において環境を気づかう生活スタイルを根づかせるよう努め、だれもが安心して、心ゆたかに暮らせる町の姿に近づくとことを目標とします。

町政に課せられている重要な責務のひとつは、町が進むべき方向道筋を描き、その実現に向かって邁進する決意を示しながら、ともに歩むよう呼びかけることにあると考えますが、計画で「環境立町」の姿勢を明確にすることとなり、

ひとつの節目を刻むことができたのではないかと考えます。

町が置かれている厳しい現実と潜在している多様な可能性に目を配り、また時代の潮流に思いをめぐらしたとき、閉塞状態にある町の未来にようやく一筋の光明がさすものと確信し、その実現に全力を傾注する考えです。

年末からこれまでにかけて、この考え方を鼓舞し、勇気づける動きがありました。

NEDO（産業技術総合開発機構）の力添えにより新エネルギービジョン策定調査の説明会を行いました。木質バイオマスの活用は次第に脚光を浴び、全国的な関心を集めています。エネルギー対策また森林・林業の活性化、地元産業振興の面からも可能性を探ることとし、新年度は間伐材や杉の樹皮、端材を燃料とした木ガス・CO<sub>2</sub>ジェネレーションシステムの実証試験を行うこととしています。

首都圏や中部圏において有機農産物や無・減農薬野菜の専門スーパー「マザーズ」（オーガニックマーケット）を展開する会社が「みどりのフロンティア」を掲げる町の姿勢に共鳴し、広く二ツ井町との交流を始めることになりました。

同社は首都圏に直営店舗「マザーズ」を展開し、大手百貨店とも提携しながら有機農産物や無添加食品、無・減農薬食品などを取り扱っていますが、昨年試験栽培した無農薬・無化学肥料の米を中心に、山ウド、タケノコ、フキの水煮について取り扱いが開始され、漬け物などについても一定の生産条件をクリアしたうえで販売を開始することになりました。コカリナ、比内地鶏や卵、木工品についても取り扱う方向で検討が進んでいます。

全国の自治体で構成する「環境自治体会議」に参加し、環境問題について勉強の機会を持ちながら提言、協力を受け、自転車のまちづくり、ISO14001取得、木質エネルギー研究などの事業に取り組んできました。

町は来年、記念すべき百周年を迎えます。記念事業は今後、町民の方々に呼びかけながら計画していくべきと考えていますが、そのひとつとして自治体会議・全国集

会の開催を打診してきたところ、事務局としてもこれを受け入れる方向で検討していると聞いています。概ね千人程度が参加し、三日間にわたり、国内第一線の研究者や実践家、自治体の首長・議員・職員らが意見を交わし、広範な環境問題について解決・改善の方向を探る貴重な機会を提供しています。町にとつてまことに意義深く、節目の年にふさわしい行事と存じ、ぜひともこれを引き受けたいと考えています。

## 産業・経済

水稲の生産調整  
生産調整は前年より四十五増え、五百五の目標面積が示されています。その推進について水田農業推進協議会で協議・決定をいただきました。米の価格維持や需給調整のため、農家、農業団体の協力を得ながら進めます。

地域農業の発展  
厳しい中にあつても担い手農家への集積、生産集団による効率的な経営や環境保全への配慮、女性農業者の直売所開設など将来の展望を切り開く動きがあり、これを促進していくことが重要。農地の取得、農機具の購入、複合新作物の施設導入などに利子補給の制度を設け支援します。

バランスがとれた農業生産構造

下水から環境基準を超えるダイオキシンが検出されました。対応に遅れがあったとの指摘は、地下水に適用される基準の確認や事態の理解に時間を要したことです。深く反省するとともに、今後の対応に万全を期すことにしています。井戸水の実態を明らかにするため水質調査計画を策定し、作業に入っています。結果の報告を待つて速やかに二次調査を行い、適切な対応を図ります。三十年近くにわたる処理が、このような形で問題となったことを深く反省するとともに、多くの方々に「心配をおかけすることとなり、お詫び申し上げます。

上水道整備  
これまで水道組合の水質検査、水源調査、地下水の水位観測、住民意向調査などを行い、準備を進めてきました。給水人口や給水量を推定しながら基本構想を策定していますが、今後は早急に事業実施区域を絞り込み、事業着手のための作業を進めます。

水不足に悩んでいる田代地区、小掛地区は、これまで実施している水源調査を参考にしながら地域の方々と十分な協議を行い、対応を図ります。

ごみ処理対策  
昨年から指定ごみ袋を導入しましたが、一月末における収集処理状況は、前年と比較して、燃える



安全にとって消費者で農業者は無農薬米づくり

と体質の強い複合経営確立のため県で「あなたと地域の農業夢プラン」応援事業を設けました。町でも助成します。

無農薬の米づくりは、関係農家の協力を得て引き続き実施します。新たに国の助成を得ながら、データ収集に努めます。

又石線（延長千三百）、種・荷上場線（延長八百二十）を施工し、十五年度の完成を目指します。

県営広域基幹林道米代線整備事業は、梅内団地の高効率作業道へ接続する計画となっています。今後、大畑橋が計画されます。

緊急雇用対策事業により林道などの草払い、側溝の土砂排出などを行います。分収造林事業として緑資源公団の受託事業、一団地十一の保育間伐を計画しました。

国有林野分収林事業は引き続き三・四の造林を行います。

商工会等地域振興  
商工会で商工会等地域振興事業を取り入れ、街づくり計画策定委員会を設置して調査・研究を行っています。三月末に中心市街地まちづくり将来像の策定が完了することです。これに基づき、十三年度には「商店街競争力強化支援事業」を取り入れ、商店街活性化の基本計画を策定することとします。

道路整備  
県道小滝二ツ井線の整備は十二年度で事業完了の予定ですが、田ノ沢以北について地元住民とともに延伸を要望してきたところ、引き続き馬子岱までの改良整備のため測量調査中と聞いています。

県道高屋敷茶屋下線は八兵衛集落手前まで進んでいましたが、三月中旬に橋梁を含む約三百の工事が発注される予定です。

町道麻生下田平線の仮称下田平大橋は十三年度中に完成し、十四年度早々に供用開始予定のことです。今後は、国道七号線や空港アクセス道の補完的な役割を担うべく、鷹巣町側への延伸について県への要請を行っていきます。

一般町道の整備は、これまでも利便性や安全確保、沿道環境整備の観点などから整備を進めてきました。厳しい財政下ですが、引き続き必要な整備を進めます。

町営住宅整備  
十二年度建築予定だった竹原住宅の二戸一棟を十三年度へ繰り越して施工します。

羽立住宅五棟のうち三棟についてはこれまでの入居者へ売却、残りの二棟については十二年度中に解体します。

ダイオキシン検出後の対応  
二ツ井町藤里町衛生組合の最終処分場と町営大沢ごみ処理場の地

大規模ほ場整備  
十三年度は四地区で実施され、悪戸地区は換地処分を残すだけとなります。十三年度の事業費は、十二年度からの繰越分も含め十四億四千万円で、進捗率は三二％となる見込みです。

農道整備  
小掛七折地区の農道整備は三月に橋梁下部工が完成、十三年度は上部工を含む前後の改良を進めます。

林業振興  
林業地域総合整備事業による林道開設は十二年度で馬子岱根小屋沢線が終了、十三年度は駒形・苅

## 生活・環境

日本海沿岸東北自動車道建設促進を要望してきた琴丘能代道路は、能代南IC（インターチェンジ）から能代東IC間、延長六・七について用地買収を進め、同じく二ツ井町分の七工区は用地買収を目指し、調査設計を進

め、同じく二ツ井町分の七工区は用地買収を目指し、調査設計を進

め、同じく二ツ井町分の七工区は用地買収を目指し、調査設計を進

ごみが三八・五％、燃えないごみが三九・一％、瓶・缶・ペットボトルの資源ごみが四三・五％の大幅な減少になっています。

四月一日から家電リサイクル法が施行され、法律によって洗濯機、テレビ、エアコン、冷蔵庫の四品目について有料のリサイクル化が義務づけられることになりました。廃家電品は清掃センターで受け入れてきましたが、従来の処理方法では新しい制度との調整が難しく変更が必要な状況です。町民への周知を図り、適正処理と制度の定着に取り組みます。



大量の家電品が持ち込まれ、後半の3月に回収された。

燃えるごみの処理は、十四年度から能代市ほか五力町村衛生事務所組合に加入する計画ですが、南部清掃工場の改造工事は予定どおり進んでいるとのことです。今年末までには工事を完了し、十四年一月から試運転を行い、四月からは当町と藤里町も加わった運転を試みながら、本格稼働に移行する見込みです。

通します。二ツ井町藤里町衛生事業処理一部事務組合に残る業務は資源ごみの処理と火葬場運営ですが、最終処分場の整備構想も視野に入れ、組織のあり方について検討を進めます。

合併処理浄化槽事業

今年度は繰越予想も含めて住宅に八十九、事業所一カ所が整備される見込みです。六年間の合計は事業所を含めて六百五十三基、整備率は人口比二〇・三％、世帯比で一五・八％に上昇します。昨年春以降、家屋の新築、改築件数が例年と比較して大幅に減少し、十一年度の目標達成は極めて困難な状況です。十三年度以降もこの傾向は続くと思われるので、目標設定を少し修正しました。

防災対策

災害対策の基本を定めた地域防災計画は昭和五十八年の策定で内容が現実にあわなくなり、昨年から見直しを進めてきましたが、素案がまとまりました。国、県の計画と調整し、完了を待つ防災会議を開催し、成案を策定します。

消防分団組織再編

装備充実をめざし、活性化対策に取り組んでいます。古い可搬式ポンプを更新するなど整備を整え緊急時に備えます。消防分団の組織再編は、六年度以降、論議が続けられてきました。緊急対応時における連携がより必要になってい

ることなどから、一層の推進を図ります。

自転車のまちづくり事業

環境省の地球温暖化対策地域推進モデル事業による「自転車のまちづくり」事業は、新たな内容を加えるように指導を受け、電動アシスト自転車の導入を図ることにしました。駐輪場整備三カ所などの事業に着手しています。



新たに3カ所設置される駐輪場（既設の駅前駐輪場）

駅前駐輪場の整備は、以前の登記手違いが発見され、手続きに一定の期間を要することから一部を繰越事業とするとともに、建物などは十四年度へ繰り延べすることにしました。さらに国・県と協議を重ね、所期の目的が達成されるよう取り組みます。

福祉・健康

少子化対策・子育て支援

就学前の子どもを持つ就労女性を対象に勤務時間を短縮し、育児

に余裕を持つてもらおう「すこやかワーキングサポート事業」に取り組みを進めましたが、条件の整備に時間を要し、本年度内の実施は難しい情勢となりました。いくつかの企業から原則的な賛同をいただき、モデル的に実現を働きかけましたが、町外社員との公平性確保や負担割合、作業形態、社内規定の見直しなど考慮を要する要素があり、これまでのところ合意に至っていません。企業側にも引き続き検討を重ねていただいております。早い機会に実現できるように努めます。あわせて、子育ての社会化について、広範な理解が得られるよう努力を重ねてみます。

の生きがいづくりと健康づくり推進事業を取り入れ支援していきます。

敬老式・祝金見直し

主催する地域や各松寿会との協議を重ねてきましたが、内容についてさまざまな考えが出されています。いままじ検討を重ね、早い機会に結論を得て十四年度からの実施をめざします。



敬老式（昨年）の内容の検討が必要となってきた敬老式（昨年）の内容の検討が必要となってきた

保育園再編

「子どもと保育を考える会」は延べ八回にわたる協議を重ね、保育内容や保育園のあり方について慎重に検討をいただいています。三月中旬に提言がまとまるとうかがっており、よりよい保育行政推進のため、提言を尊重していきます。

介護予防・生活支援事業

家族介護教室や転倒・痴呆予防教室を開催し、介護状態に陥らない予防対策に力を注いでいますが、各種予防教室を継続しながら、新たに松寿会連合会を対象に高齢者

国民健康保険事業

本年度から法が改正され、保険税の滞納者に対し、被保険者証に代えて資格証明書を交付することが義務化されました。その実施要綱を定め、適正な運用を図っていきます。

十三年度の保険税は経済状況や医療費の動向、繰越金などを考慮して据置き、一世帯あたりの保険税は前年度とほぼ同額の十二万九千円をお願いしたいと考えています。

昨年度より導入された介護分は

行政運営

入札の適正執行

適正な執行を確保するため昨十一月に設置した入札、契約事務改善検討委員会は、これまでに七回開催し、できるものから速やかに実践しながら作業を進めていますが、四月一日から「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」が施行され、これに沿った対応も必要となり、年度を超えて検討が必要となりました。改革案に町民の意見を反映させるため、六人の委員による町民懇談会を設置しています。

法定外公共物無償譲渡

水路、里道などの法定外公共物は、これまで機能管理を市町村、財産管理を国で行っていましたが、地方分権法により国から市町村へ無償譲与されることになりました。十三年度から平成十六年度までの四年間で譲与申請を進めます。

ISO14001

昨年、認証取得したISO14001は、その後もシステムの見直しを進め、認証機関による継続審査を受けています。今後も継続的に改善を進め、広報などで情報提供を行いながら、環境対策に対する理解を進めます。

教育・交流

新町民体育館建設

これまで町民の意向把握に努めるとともに、庁内に検討委員会を設置して検討してきましたが、総事業費は二十億円を超える見込みになっていきます。さらに事業手法の調査や財源について検討する必要があるため、作業を続けています。十九年度の国体及びその前後のスケジュールは定められているので、適切な時期に決断します。

外国人のための日本語教室

町には多くの外国人登録者があり、こうした方々や関係者から町に対し、日本語教室の開設要望が届けられています。県単補助を受けられる見通しとなりましたので、十三年度に補助事業を導入して、「日本語教室」を開設することとしました。年間七十時間程度の講座を予定しています。

国体準備委員会設置

十九年度開催の第六十二回秋田国体まで残すところ六年となり、十三年度に国体準備委員会を立ち上げ、準備を推進したいと考えています。

小学校コンピュータ教室

八年度に「児童一人一台」で学習できる環境を整備しましたが既に五年が経過し、新しい機種に更新することにしました。個別学習の支援や問題解決能力の促進、自然観測、情報収集など幅広く活用できるようにするため、「児童一人一台」に拡充し、校内LANを整備し、全員の児童が同時にインターネットに接続できるよう環境を整えます。

小学校再編整備

年度内に方向付けを図りたいと報告していましたが、少し時間をいただきます。新年度の早い時期に町としての方向づけを行い、同年度内に結論を得るべく取り組みます。

小学校給食

地元農産物の使用について、協議を進めてきましたが、県学校給食会と同水準の価格で購入できる見通しとなり、十三年度から「二ツ井産のあきたこまち一等米」のご飯を食べてもらえよう準備を進めています。米穀以外は、数量品質、価格面などから調達できる野菜の把握に努め、拡大をはかっていきます。

IT基礎技術講習会

IT（情報通信技術）の普及に向け、幅広い層の人々がパソコンやインターネットを活用できるよう基礎技術講習会を実施すること

にしました。

中学校及び二ツ井高校を会場に、夏休みと冬休みそれぞれ四日間、総勢八十名の受講生を対象に行うことにしています。

出合いの場

独身男女の出合いの場を作り、婚活奨励の一助になればと、十二年度から出合いときめきサークルの支援を行っています。各界の方々に呼びかけ、いくつか試みを行いました。具体的な成果をあげるのはなかなか難しいことですが、さらに継続し、糸口を探ります。



行われたダウンタウン兼カウンセラーの男女の交流の場

地域づくり

きみまちの里フェスティバル、きみまちの里フェスティバル、きみまち二ツ井マラソンは回を重ね、今年で七回目を迎えることとなり、十月の第三日曜日を中心に開催することになっています。



がランナーの二ツ井マラソン大会が、県内外から集

恋文全国コンテスト

これまでの反省を基に検討してきましたが、継続することがより良い方向であると考え、広く意見ご指導を得ながら進めます。

田園空間整備

国の田園整備事業を導入して計画している富根地域の新しいコミュニティ施設は、十二年度に一部の用地買収を進めています。新年度には、残りの用地買収と造成工事を行い、合わせて実施設計を進め、十四年度の建設を目指します。

自慢料理開発事業

町の魅力を一層確かなものにするため、農産物など優れた食材を活かしたメニューの開発に取り組む「自慢料理開発事業」を推進します。地域の素材を掘り起こし、料理方法やオリジナルなメニュー、商品の開発を狙いに、飲食業や宿泊業などを中心に、新たに「食」による起業に意欲のある方など視野に入れ、取り組みます。

13年度 主な事業と予算

印は新規事業

【TRY 1 ふるさとで輝き生きる産業のまち】

大区画ほ場整備事業(ハード)	112,340,000円
大区画ほ場整備事業(ソフト)	4,401,000円
あなたと地域の農業夢プラン応援事業費補助金	7,379,000円
水田農業経営確立対策事業	15,774,000円
持続的農業推進対策資金利子補給費補助金	450,000円
中山間地域等直接支払事業	7,748,000円
林業地域総合整備事業	204,557,000円
県営林道開設事業	16,664,000円
中小企業活性化事業補助金	700,000円
物流開発事業	1,471,000円
若手工商業者人材育成事業補助金	300,000円
商店街競争力強化支援事業補助金	450,000円

【TRY 2 たいせつな日々の暮らしを守るまち】

一種特定交通安全施設等整備事業	17,012,000円
小掛七折地区農道整備事業	55,561,000円
固定式防雪柵設置事業	6,146,000円
情報通信技術講習推進事業	747,000円
高度情報化推進事業	2,209,000円
合併処理浄化槽整備事業	190,495,000円
消防施設整備事業	34,706,000円
消防団活性化総合整備事業	11,008,000円

【TRY 3 つなぎあう心でさえずる福祉のまち】

高齢者生活福祉センター運営事業	6,655,000円
在宅介護支援センター運営事業	5,306,000円
生きがいと健康づくり推進事業	313,000円
シルバーパス事業	6,800,000円
介護保険事業	732,823,000円
保健事業	25,082,000円
予防接種事業	2,925,000円
二ツ井ふくし会補助金	20,247,000円
配食サービス事業	5,700,000円
外出支援サービス事業	3,120,000円
心身障害者小規模作業所補助金	5,196,000円
ボランティアセンター活動事業費補助金	1,552,000円
やすらぎ事業	4,200,000円

【TRY 4 いきいきと学び育てる文化のまち】

小中学校整備費	15,622,000円
外国語指導助手招致事業	6,317,000円
日本語教室	534,000円
県指定文化財保護管理事業	901,000円
きみまち恋文コンテスト	12,172,000円
きみまちの里フェスティバル	5,969,000円

【TRY 5 まもりあう人と自然がいきるまち】

ISO管理事業	2,302,000円
自然循環機能増進総合対策事業	2,104,000円
自然エネルギー導入促進事業	740,000円
緊急地域雇用特別基金事業	3,015,000円
緑資源公団分収林受託事業	1,111,000円

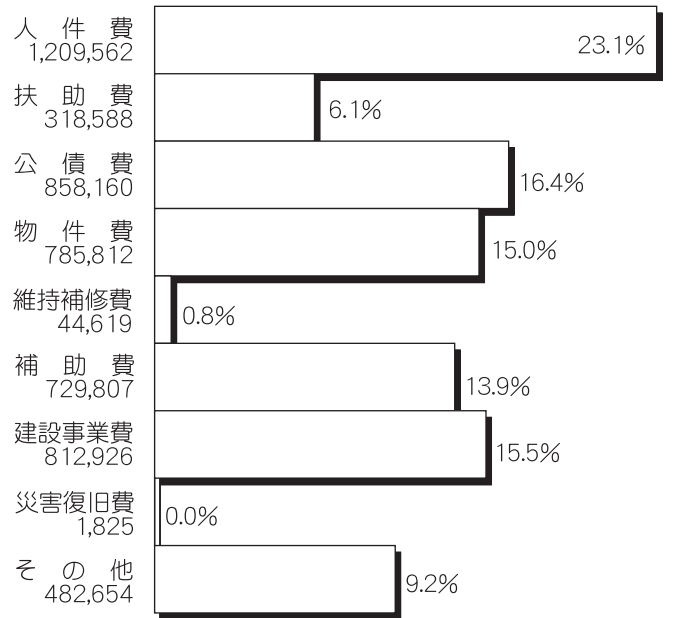
【TRY 6 ちいきの声大きく響くふれあいのまち】

法定外公共物譲与事業	6,123,000円
コミュニティ助成事業	1,120,000円
自慢料理開発事業	625,000円
国体準備委員会補助金	200,000円
田園空間精美事業	66,999,000円

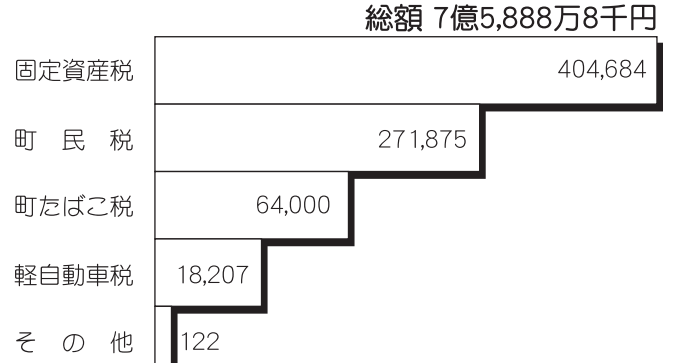
# 財政の健全化に配慮し 重点的・効率的な予算配分

13年度当初予算は前年比5.7%減の52億4,395万3,000円

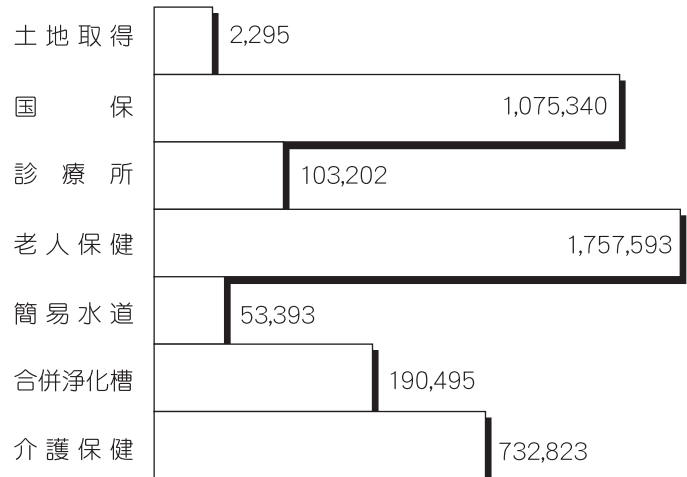
【性質別歳出状況】 [単位:千円]



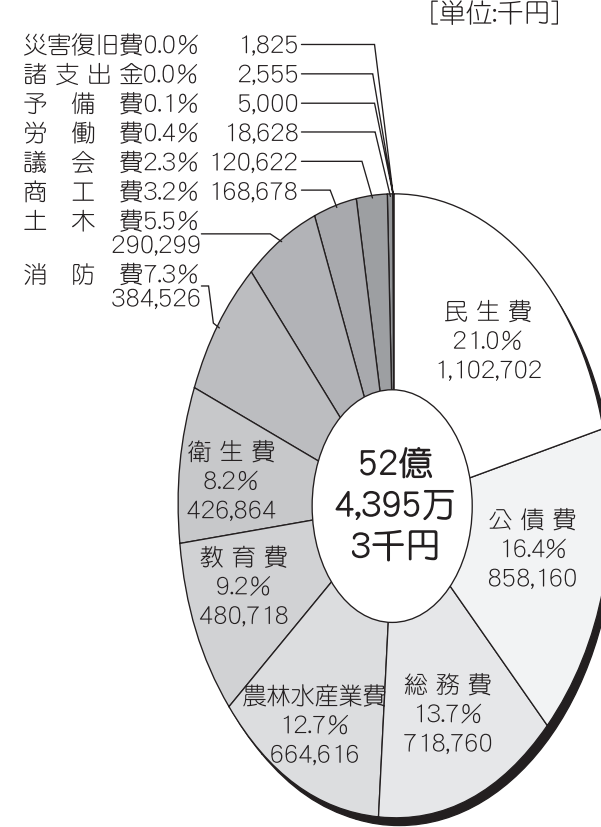
【町税のなかみ】 [単位:千円]



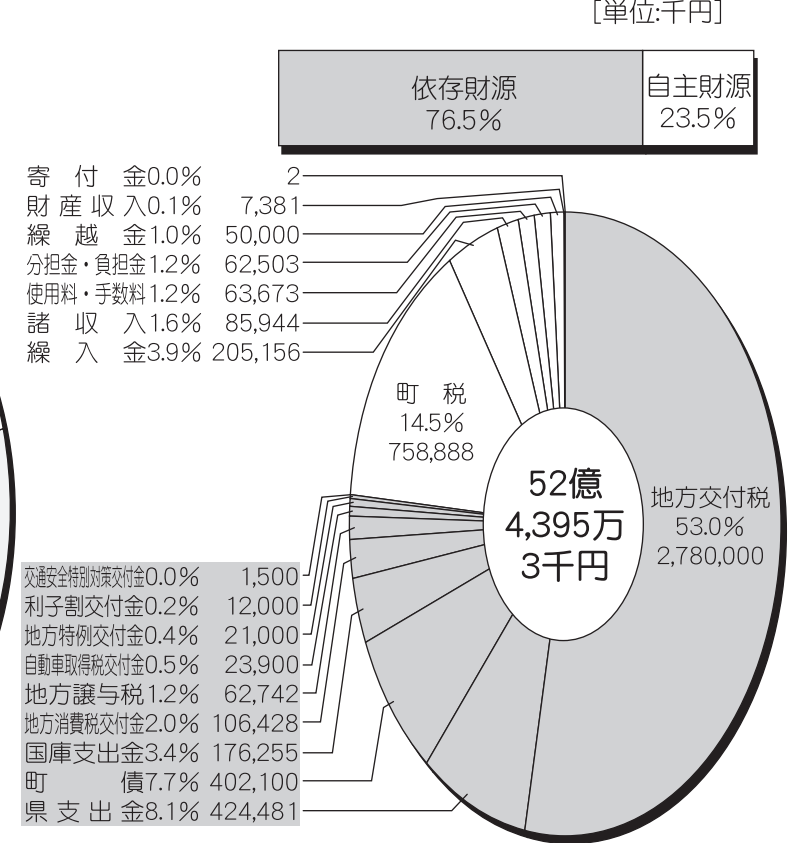
【特別会計歳出状況】 [単位:千円]



【一般会計・歳出の構成】 [単位:千円]



【一般会計・歳入の構成】 [単位:千円]



町民一人当たりの歳出

420,931円

- 民生費・衛生費 122,778円
- 教育費 38,587円
- 農林水産・商工・労働費 68,384円
- 土木費 23,302円
- 消防費 30,866円
- その他 137,014円

町税一人当たりのなかみ

60,916円

- 固定資産税 32,484円
- 町民税 21,823円
- 町たばこ税 5,137円
- 軽自動車税 1,462円
- その他 10円

3月定例町議会 可決された主な議案

職員の再任用に関する条例の制定について	を5,628,471,000円とする
4月1日から新たに再任用制度が実施されるため	『主なもの』
保育所設置条例の改正について	・バス路線維持費補助金 16,355,000円
入所児童の減少に伴う定員の変更のため	・電動アシスト自転車購入費 1,542,000円
12年度一般会計補正予算	・駐輪場造成工事費 1,447,000円
歳入歳出予算をそれぞれ50,773,000円を減額し、総額	・大区画ほ場整備事業費負担金 75,829,000円